

## 9 章用語注

文責：横田

ガタリは政治と精神療法の実践との連携が実現することを願っていた。そのため多岐にわたる革命的活動をしているのだが、ここでは9章を読む上で私が「注が欲しい」と思ったものをまとめてみた。4章をきちんと読んだ人なら不要とおもわれる。

### ラボルド

ラボルド精神病院。ガタリの勤め先。

### 三月二十二日運動

1968年3月22日に起きた、ベトナム戦争反対を唱える国民委員会5人の検挙に反対する学生運動（とそのメンバーによるその後の運動も含む？）ナンテール（フランスの地名）で起きる。



### FGERI：制度論的研究グループ連合

1965年にガタリが創設したもので、制度分析に向かって方向づけられた社会的領域で作業するあらゆるグループが、他の分野にかかわるグループと相互に呼びかけあうことで、各々の成果を最大限流通させるための組織。

～詳細～

12ほどの専門的な能力をもつ自立的グループが連合。結集した研究者は百人余り。精神科医、人類学者、精神分析家、看護人、教育者、経済学者、都市計画の専門家、海外協力隊員、映画人などが参加。

知的活動を非アカデミズムの研究プログラムへと転換することを目的とする。

フェルナン・ウリの教育学やフランソワ・トスケルの精神療法から着想した制度論的分析に依拠し、中心的分野は精神医学。

多様性の思想を持ち、いっさいの中央集権形態を拒否。管理機構はなく、多様なグループは年に1度ラボルドで催される祭りの時期にのみ出合いの機会を持つ。

刊行雑誌名：ルシエルシュ (p93、95 参照)

### CERFI：制度論的教育・研究・養成センター

FEGRIの活動に刺激を与えて、これを豊富化することができるような問題について、公的もしくは私的な組織体と研究契約を結ぶことを目的とした組織体。1970年代の黄金期には国から多額の補助金を得ていた。(p93 参照)

左翼反対派 (OG)

FGERI のネットワークのなかで知り合った専門家たちが政治的介入をする時の“つばさ”。  
(p96)

ソルボンヌ

パリ大学の通称